

単元目標

- 【関】叙述から想像を膨らませて読み、読み取ったことを進んで話し合おうとする。
- 【読】登場人物の相互関係や場面の描写から、その心情を叙述に即して想像しながら読むことができる。優れた叙述に着目して、学習問題や主題について話し合い、自分の考えを深めることができる。

単元の主題

動物の生き様の中にあるような、美しいもの、感動するものに素直に心を動かされ、自分の生き方を豊かにしていく、人の生き方の美しさや喜び。また、そこに描かれている動物と人間との関係性。

事前指導

- 読書環境の整備
- 別の椋鳩十の作品の読み聞かせ？
- 学級文庫に椋鳩十の作品を置く

- 別の作品での読む力の指導
- 一人読み「登場人物」の定義
- 情景描写から心情を読む 音読
- 「～と～」が題名である物語から登場人物の関係を読む経験

新出漢字、語句の確認、音読

○「大造じいさんとガン」の題名から思ったことを交流しよう。(題名読み)

- ・ガンって何だろう。だれのことかな。
- ・大造じいさんとガンの二人はどんな関係なのかな。友達とか仲良し？

ここで出た疑問点は、掲示して読み取りの中で解決できるようにしていく。

○初めて読んだ感想を交流しよう。(全文通読)

<p>* 残雪の人物像</p> <ul style="list-style-type: none"> ・残雪は強くてカッコいい。頭がいい。 ・自分を犠牲にしてまで、仲間を助けるなんてすごい。優しいな。 	<p>* おじいさんの人物像</p> <ul style="list-style-type: none"> ・粘り強い性格。自分だったらあきらめちゃう。何年もチャレンジしてすごい。 ・一羽をとっておとりにするなんて、よく思いついたな。頭がいい。 	<p>* おじいさんの残雪に対する気持ちの変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おじいさんの残雪への気持ちが変わったのがおもしろい。 ・残雪を敵視してるけど最後優しくなるのがすごい。 	<p>* 二人の関係性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おじいさんと残雪はライバルみたいですごい。二人の知恵比べて感じて面白かった。 ・残雪への敵対心みたいなのが相当強い。 	<p>* ぎもん</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なんでおじいさんは、残雪を打たなかったのか。 ・どうしておじいさんはあんなに憎んでいた残雪を助けたのかな。 ・題名はなぜ「大造じいさんと残雪」ではないのか。
---	---	--	---	---

- ・みんな残雪とおじいさんのことが気になっている。
- ・おじいさんと残雪はどんな関係だったのかな。
- ・二人はライバルだったのかな。
- ・ライバルって敵ってこと？最初は敵みたいたったけど、最後は優しくしたりしてる。おじいさんにとって、残雪は敵なのかな。

大造じいさんにとって、残雪は敵なのか。

時、場所、登場人物、出来事の見出しをつくれるか？【】は重要語句・文。

○お話全体の展開を場面でおさえよう。

- * 前書き → 物語の設定
- * 第1場面(1年目) → 「うなぎ釣り針作戦①②」【いまいましい】【たかが鳥】【うむ】 ⇒ いまいましい敵。たかが鳥。感嘆する余裕もある。
- * 第2場面(2年目) → 「小屋を建てて待ち伏せ作戦」【うん】 ⇒ うなるほど悔しい。屈辱的。敵対心が強くなる。
- * 第3場面(3年目秋) → 「おとり作戦でハヤブサ登場」【再びじゅうを下してしましました。】【だたの鳥に對している気がしない】 ⇒ 敵であるが、尊敬もしている。今までとは違う。
- * 第4場面(4年目春) → 「残雪は放たれる」【ガン英雄】【えらぶつ】【おれたち】 ⇒ 憧れさえ抱いている存在。尊敬する相手。

ハヤブサやガン、うなぎ釣り針、などは実物や写真を提示。猟師の生活も補足的におさえる。

- ・敵みたくないところもあるし、最後は敵じゃない感じもする。もっと詳しく読みたい。
- ・おじいさんの残雪に対する気持ちと、残雪のおじいさんの気持ちがわかるころを読んでいけば、敵かどうかははっきりする。

○場面ごとに、おじいさんの気持ちと残雪のおじいさんの気持ちを読みながら、おじいさんにとって残雪は敵なのかを読んでいこう。

- * ①大造じいさんの残雪に対する気持ちと、②残雪の大造じいさんに対する気持ちを読んでいく。その中で、残雪は【本能】で動いており、大造じいさんへの明確な心情は描かれず、終始おじいさんは残雪にとってただの敵でしかないことを気づいていく。またそれを踏まえて、③敵かどうかを考える。

●第1場面(1年目)を読もう。

◆敵だと思ふ

- ・「いまいましく思っていました。」とあるから、敵なんだと思ふ。ガンが捕れないとおじいさんたちは生活できなくなっちゃう。「残雪が来たら一羽も捕れなくなった」んだから、恨んでいる。
- ・「今年こそ」「かねてから」ってあるから、ずっと前から恨み続けている敵だと思ふ。
- ・「たかが鳥」ってあることは、おじいさんはまだ自分に勝ち目があると思ってる。ただの動物って感じで、馬鹿にしている。自分の腕の方が上。
- ・「感嘆の声」は、馬鹿にしたから、驚いたんだと思ふ。感心しちゃったけど、まだ負けないぞって思ってる。だから敵だと思ふ。

◆敵じゃないと思ふ

- ・「たかが鳥」ってあるから、自分より下って見てる。おじいさんにとっては敵って程じゃないのかも。→上記の考えを聞いて動かす。

●第2場面(2年目)を読もう。

◆敵だと思ふ

- ・1年目よりすごい敵対心が強い。「一発ぶち込んで」「ほおがびりびりする」ってあるから。執念って感じ。絶対倒してやるって気持ち。絶対倒してやるって思ってたから、「うん」もっと悔しくなった。言葉が出ないくらいイライラしている。

◆敵じゃないと思ふ

●第3場面(3年目)を読もう。《本時》

◆敵だと思

・「あの残雪め」ってあるから敵。これまでの1年目・2年目で恨みがどんどん強くなってきたから、もう倒すしかない敵。
・「じゆうを下した」ってあるけど、敵じゃなくなったわけではない。残雪にとっては「おそろしい敵」ってあるからおじいさんにとっても敵じゃないか。
・残雪はおじいさんに対してなにも思っていないけど、ハヤブサと同じような敵だとは思っている。おじいさんは、傷ついた残雪に「かけつけ」て、「手を差し伸べた」とあるから、優しい気持ちが出てきている。敵だけどころかかわいそうに思ってきた。

◆敵じゃないと思

・「再び、じゆうを下してしまいました」ってあるから、敵じゃなくなったのだと思う。敵ならうってもいいはず。
・「ただの鳥に対しての気がしませんでした」とあるから、もう敵じゃない。
・最初は敵だったけど、敵じゃなくなったのだと思う。
・かわいそうとかではなくて、「強く心を打たれました」ってあるから、残雪の姿に感動しているんだと思う。仲間を助けたり、死にそうになっても頭領として堂々とする姿に、すごいなって思っている。今までとは違う。

●第4場面(4年目)を読もう。

◆敵だと思

・「また闘おう」って言っているから、敵だと思。
・敵だと思けど、1年目・2年目とはちがっていいライバルって感じ。残雪は動物だからおじいさんには何も思っていないけど、そんな残雪の強さと仲間を大切にすることの優しさにおじいさんは感動したから。もうただの鳥じゃない。「英雄」とか言ってる。

◆敵じゃないと思

・おじいさんにとっては、一生の友みたいな感じ。理由は、大造じいさんにとって残雪は、30年以上経っても忘れられない存在だったから。残雪は思っていないけど。
・ライバルって言っても、悪いライバルじゃなくて、仲間って感じ。「おれたち」って言っている所からわかる。残雪に対して、尊敬してる。すごい奴だって思ってる。
・「おれたち」ってあるから、自分も残雪みたいになろうって思ったんじゃないか。憧れているっていうか。もう倒す敵じゃない。

●話し合いをして、思ったこと・わかったことを交流しよう。

・動物にも感動して、憧れたり、自分も優しくなろうと思ったりする大造じいさんはすごいな。自分も自然とかに感動したことがあるけど、ここまで思ったことはなかった。今度は、そんな風に動物とか自然を見てみたい。
・棕さんの本は動物が出てくることが多いらしい。他にどんなお話があるのかな。

○棕 鳩十さんの他の作品を読んで、紹介カードを書こう。

